

サロンあべの

《てくてく・すみよし》

■てくてく・パクパクの10周年

《サロン・あべの》5月の出会い

平成17年5月21日（土）、《サ

ロン・あべの》5月の出会いは、

「サロンよいとこ、こんなとこ」

てくてく・パクパクの10周年」

を、《てくてく・すみよし》代表

の土井俊次さん（写真左）に、山

本篤江さん（写真右）の司会で

お話いただきました。

・誕生

《てくてく・すみよし》は、平成7年6月に誕生しました。

それより前に住吉ボランティア・ビューローから、外出しにくいお年寄りや障害者の方々に外出の機会を設ける交流会のお手伝いをして欲しいと相談を受けました。そこで普段から外出の機会に恵まれないお年寄りや障害者の方が多くおられることを知り、外出交流会を作りました。その後、この外出交流会を発展解消して、これまで共に活動をしてきたボランティアさん



や障害者の皆さん方に協力をお願いして、《てくてく・すみよし》を立ち上げ、活動を始めました。

・活動

《てくてく・すみよし》では、障

サロンよいとこ、 こんなとこ

《てくてく・すみよし》の主なイベント

- 1996年 6月 《てくてく・すみよし》発足式
- 10月 信太山ハイキング
- 12月 福本淳コンサート
- 1997年 4月 万代池公園お花見
- 10月 住吉めぐり
- 1998年 4月 長居公園でガーデニング体験
- 10月 盲導犬と共に
- 1999年 4月 大阪造幣局見学
- 8月 電気科学館
- 2000年 3月 ほっこりハート広場出店
- 6月 お好み焼きで梅雨を吹き飛ばそう
- 10月 海遊館
- 2001年 5月 5周年記念企画
東京ティズニーランドツアー
- 10月 バザーちょっと体験
- 2002年 2月 大阪歴史博物館見学
- 10月 秋だジョーズだUSJ
- 12月 ちょっとリッチな忘年会
日航ホテル
- 2003年 4月 弥生文化博物館見学
- 8月 さをり織りの魅力を体験
- 2004年 4月 かば・カバ・河馬 天王寺動物園
- 12月 地震を体験しよう!
大阪市立阿倍野防災センター
- 2005年 2月 難波パークステビュー・新年会
- 4月 奈良公園散策
- 6月 お好み焼きパーティー (予定)
- 以後未定

○現在機関紙《てくてく・すみよし》第55回発行済。



《てくてく・すみよし》のイベントには例えば、「かば・カバ・河馬 天王寺動物園」(2004年4月)のように、ひと味もふた味も違うネーミングが。

害者やお年寄りが気軽に外出したり、参加出来る会にしたいと思いました。老若男女の区別なく、お互いに不便なところをちよつとカバーし合い、バリアフリーの生活を過ごせるように目指しました。そして、皆さんに参加してもらおう機会を作るにはどうすればよいかを考えました。

人間の基本は「食べること・遊ぶこと」だと思っております。そのために人は、いろいろなことを生きているのだと思います。《てくてく・すみよし》では、その基本である食べることと遊ぶことを会のメインに置いてサロンの活動を企画しています。どう苦勞しますが、決まると行動は早いです。

誰でも参加できることが基本ですので、その月の内容が決まると早速下見に出かけます。スロープやエレベーターはあるか、車いすトイレはどこにあるか、店内や行く場所が分かりやすいか、動きやすいところか、店員や担当者の対応は良いかなど、多くの課題を持って行きます。それでも帰ってから見落としした所などがあつたと気が付くと、再度確認に行くことも度々あります。委員には、車いすを使用して、いる人、盲導犬と共に行動している人たちがおられるので、お出かけチェックも厳密なものになつてきます。

そのかわり、当日は細かいことにとらわれることなく、楽しむことに徹するよう心がけてい

お知らせ

<サロン・あべの>7月の出会い

日 時…7月16日(土) 午後1時～4時
 内 容…サロンよいとこ、こんなとこ
 ～「サロン・にし」あれこれ物語～
 お客さま…宮脇淳さん

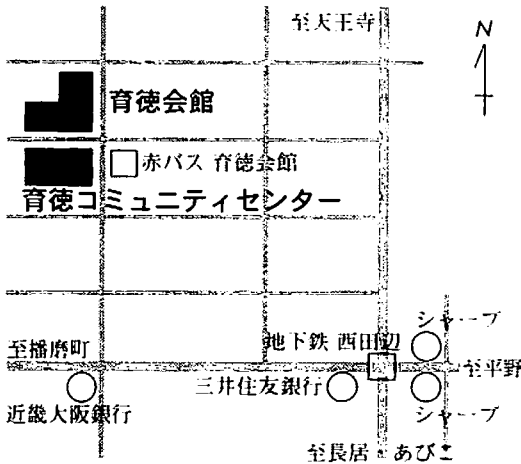
(「サロン・にし」事務局スタッフ)

場 所…育徳コミュニティセンター2階
 研修室(スロープ・車いすトイレ有)
 大阪市阿倍野区阪南町5-15-28
 TEL. 06-6621-1901
 最寄り駅=地下鉄御堂筋線「西田辺」
 赤バス「育徳会館」下車すぐ

会 費…なし

問い合わせ先…

TEL 06-6691-1028 (富田慶子)



ます。

イベントは、外出交流を含めて

偶数月に、年6回開催していま
 す。機関紙「てくてく・すみよし」
 は奇数月に年6回発行していま
 す。そして、毎月実行委員会は、偶
 数月は第三土曜日、奇数月は第二
 土曜日に開いています。

・思い出、エピソード

一番の思い出は、5周年記念
 企画で東京デイズニーランドに
 行ったことでした。デイズニー
 ランドに行きたいと言う声が出
 た時は、無理だと思いましたが、
 いろいろな情報を集める中から
 協力者や理解者も現れて、だん

だん行ける予感の方が大きく膨

らんできて、ついに実現にこぎ
 着けました。それで3年前より
 そのための積み立て預金の希望
 者を募り始めました。積み立て
 者全員が行けたわけではあり
 ませんが、参加希望の人
 は全員旅行に参加できました。
 リフト付き観光バスをチャータ

して、大阪を夜に出発。夜明け

前に富士山を眺め、朝陽の中を
 デイズニーランドに到着しまし
 た。後は自由行動で、それぞれが
 目いっぱい楽しんでいただけ
 ようです。

《てくてく・すみよし》は、不
 思議なくらいお天気に恵まれて
 いて、中止を考えるほどのどし
 やぶりでも、当日、その時間にな
 るとすっきりと晴れるジンクス
 があるのです。これが1度や2
 度ではないので、正にてくてく
 パワーだと皆で言い合っていま
 す。

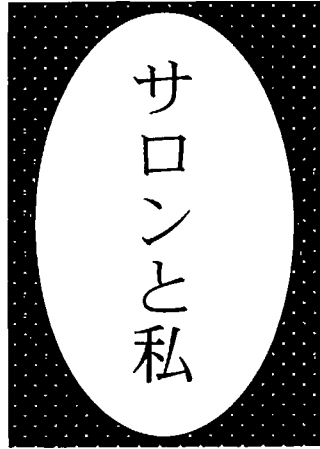
・これから

《てくてく・すみよし》のこれ
 からは、特別なことを考えず、今
 まで通りの《てくてく・すみよ
 し》の活動を続けて行きたいと
 思っています。15周年、20周年と

続けて行けたら幸せだと思っ
ています。ひと味違ったユニーク
なサロン活動ですが、これから
も地道にでくでくと歩んで行き
たいと思っています。皆さま、今
後ともどうぞよろしく、お願い
申し上げます。

土井さんと山本さんは、《てく

てく・すみよし》の前身「おでか
けサークルてくてく」のころか
ら共に会を支えてこられたお二
人です。あうんの呼吸は絶妙で
した。誕生の話、活動の話、思い
出話、機関紙のエピソード・・・
息のあった二人の語りはこの日
参加された人は《てく・すみ
よし》を満喫されていたようで
うです。そして、今年10周年を記念し
(見出しII中西利香・筆)
(参加者17名 富田慶子)



サロンと私

こんにちは、おもしろい姉ちゃんです。

サロンとの出会い、それはまだ初々しさの
残る女子大生の頃、卒論のため「グループ

ホームの勉強会」の文字にただ1度のつもり

でサロンを訪れたのが、なぜか気づけば、編
集長さんと富田さんにおだてられ、おもしろい
姉ちゃんとして、原稿を書く羽目に。
そして、この数年は精神障害を抱え、生活
保護を受給中という方々と、救護施設という

しばらくの間、知的な障害を抱える心やさ
しい人たちに私が助けられる日々を楽しく書
かせていただきました。そこから、養護施設
に移り、小さな体と心に一杯一杯の悲しみを
抱える子どもたちとすったもんだの日々が始
まり、不特定多数の人に読んでもらうには私
の文才ではどうしようもなくなってしまい、
「おもしろい姉ちゃん」の原稿を降りさせてい
ただきました。
「おもしろい姉ちゃん」の原稿を降りさせてい
ただきました。日も笑いをふりまいております。

(おもしろい姉ちゃんこと藤村美登利)

赤松 昭

「谷間」に

「こだわり」続けて

13

「地域間格差という谷間(その3)」

市との交渉を終えた私達は、大きな徒労感を抱えて寛太君の家を尋ねました。私たちを迎えてくれたお母さんは大方の予想がついていたようで、交渉経過を「やっぱりね」という感じで聞きながら、成果なく戻った私たちの苦労をねぎらうことを忘れませんでした。でも最後に「やっぱり引越すしかないのかなあ」と呟く寛太君のお母さんに、私たちは返す言葉がありませんでした。

現在、障害児・者福祉施策は過渡期にあるため、地域によるサービス供給体制のばらつ

きが激しくなっています。寛太君の例ではお母さんが交渉を重ね、地方では比較的多い支援費支給量を確保していますが、それでも本人の就学・社会参加の機会保障、家族の介護支援には程遠いものです。なるほど都市部に行けば、ある程度事業所を選ぶことが出来ます(それでも障害者のニーズに合う事業所を探すのは困難)。ところが地方に行くと、大手介護事業者の進出は皆無に等しく、ヘルパー派遣をしている事業所といえば、社会福祉協議会とJA(農協)しかない。そんな市町村がいくらでもあるのです。「自己決定と選択」。今の障害者福祉を彩る言葉こそ華々しいものの、住んでいる場所によっては実際は選べるようにも肝心の事業所がない、というのがこの「地域間格差」の実態です。

以前ほどではないにしろ、景気対策を名目に地方には多くのお金がつぎ込まれていきます。そのお金を使って道路が出来、橋が出来、そしてもちろん、Q市にだって立派な「保健福祉センター」があります。それどころか、定期便が就航する立派な空港さえあるのです。なのに、寛太君の介護をする肝心のヘルパーがいない、本人と家族を支えるネット

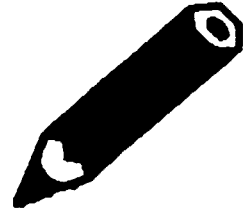
ワークが存在していないのです。お金を使ってもハコモノは出来たものの、福祉サービスを必要とする人はもちろん、そうでない人にとつても住みやすい場所にはなっていない。そしてそのためにどんどん過疎化が進行している。こんないびつな発展の仕方をしたQ市のような地方都市がこの国にはたくさんあります。地方の時代、中央集権から地方分権へ、地域ケア体制の確立、地域福祉活動の推進、等々。その言葉自体に文句のつけようはありませんが、残念ながら実質が伴っていないのです。「地域間格差」という制度の谷間は、一体いつになったら埋まるのでしょうか。

●
ありがとうございます。

カンパ、ハガキ・カセットテープ・コンサートのチケット・お茶・お茶菓子・自伝著書・輪ゴムなどの寄贈、また、サロングッズの買い上げ、ありがとうございました。

池内沙織、磯崎章、植松菊雄、上平幸雄、大和田弓子、奥田真祐美、金戸述、小西京子、小西千代子、田辺徳孝、土井俊次、藤井さゆり、山本篤江、吉岡克彦、その他の方々。(敬称略)

17



邦子、 ..ん歳の手習い。

障害者の自立生活

―パークレーの障害者学生の生活―

アメリカの障害者自立生活運動は大学から始まり、地域に広がっていったという経緯があり、一部エリート障害者中心の運動であったという批判もあります。しかし、それは介護の必要な重度障害者の大学教育を可能にし、広まっていき、一般化したともいえます。

1987年のパークレーの大学構内や町では、電動車いすを利用する障害者が行き来して、日本から行った私たちにとれば、こんな

にも重度障害者が普通に暮らしているという意味で活気に満ちていました。

当時、大学生であったジョージクリストファー君は遠くボストンから家族と離れ、大学での自立生活を選びました。彼は、かすかに動く指で電動車いすを操作し、彼用に改良されたコンピュータを使って、学生生活を送っていた筋ジストロフィーの重度の障害者でした。大学生活は医者からも無理だと言われたが、本人の強い意志を汲み取って、彼の入学を認めました。両親にとつても息子との別うことでした。

彼は、大学寮で学生プログラムを利用し、介助者を自分で雇いながらの自立生活を学んだ後で、寮を出て、地域のアパートで生活していききました。アパートでは、他の2人の障害者学生と部屋をシェアする形だったので、体調が悪くなったなどの緊急の場合などは連絡してもらえろという安心感もあるようでした。授業のノートは友達に頼んだり、彼は重度でしたが、普通の学生生活を送ることがで

きました。



<サロン・あべの>は20年になります。

アメリカの当時の障害者の自立生活者は、介助者を自分で雇用し、自分にとつて不適切な場合は解雇する能力や、生活時間などの自己管理能力が求められました。クリストファー君の自立生活のように、親元を遠く離れ、厳しい自己管理を求められ、自立生活は決して安易なものではありません。学生寮の障害者自立援助のスタッフは、支援していく場合、難しいのは、障害が重度であるかどうかではなく、自立生活への意志や取り組みに

ついて、学生が精神的に不安定な場合であると語っておられました。どんなに重度の障害者であっても精神的にしっかりした学生は、楽であったということです。

クリストファー君の場合、学生寮の中でも最も重度な障害者であったということです。が、学生寮のスタッフは、彼は自立への意志を含め、精神的にしっかりしていたので、もつとも楽な障害者であったと語っていました。それまでの重度障害者にとつての親との同居や施設・病院の生活ではない選択、すなわち、彼にとつては普通の大学生生活を送るという自立生活へ強い自立の想いがありました。エド・ロバーツは障害者のロールモデルを作っていく、そこから自立生活運動を広げていくことが大切であると語っていました。

大学校内や街で見かけるクリストファー君は、淡々とした落ち着いた様子の中にも、生き生きと学生生活を送っているという印象でした。私の夫も、クリストファー君へのインタビューを通じ、自立生活について多くのことを学び、その後の日本での大学での障害者学生受け入れなどの活動などにつながっていました。

(定藤邦子)

私は本が好きなのでよく読む。どの作家の本でも読むが、強いていえば五木寛之の本が好きである。

五木寛之は小説やエッセイなど幅広いジャンルの作品が多い。そのような中でも「青春の門」や「大河の一滴」などはあまりに有名で、今でも多くの人に愛読されている。

五木寛之はまた仏教、わけても浄土真宗に帰依されているので「親鸞」や「蓮如」について書かれた作品もよく目につく。ともすれば仏教といえど難解のように思われがちだが、五木は仏教というものを深く追究され、分かりやすく書かれているので誰が読んでも理解できると思う。

先日、五木寛之の「みみずくの日々好日」というユーモアエッセイを読んだ。この本は朝日新聞の朝刊に連載中の「みみずくの

夜メール」を主として、他の作品と一緒にまとめられたものである。この本の中のタイトルは50ほどついている。例えば「オッパイは初夏でしょう」とか「伊藤さん、路上歩行で屁」のタイトルを見ただけで、思わず頬をゆるめたくくなるような作品ばかりである。

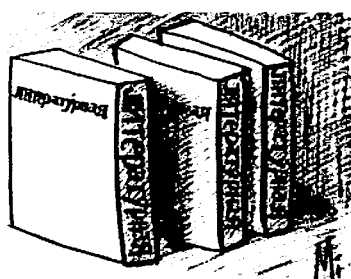
この本のあとがきに五木寛之が「ロシア語に『フェイエトン』という言葉があるそうだ。雑録とか雑文とか訳されるそうだが、私が書くものはエッセイというより、このフェイエトンという言い方が

ぴったり来るように思う」と書かれている。私もこうしてエッセイを書いているが、このあとがきを読むとなんだか「エッセイを書いています」と言うことすら恥ずかしくておこがましく思うのである。

晴れのち晴れ 81

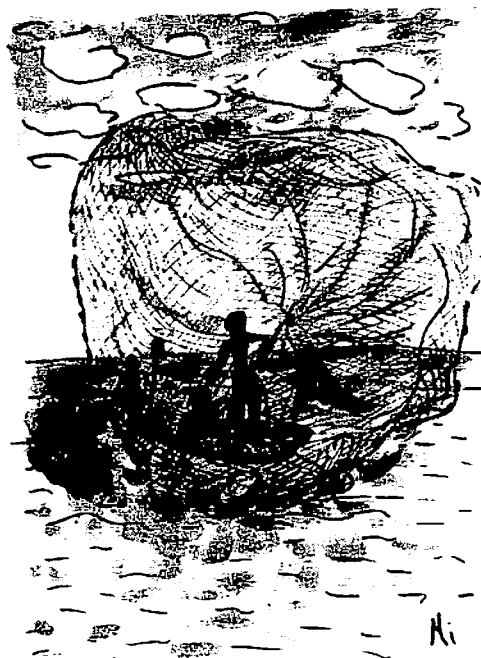
印象に残った言葉

稲垣 恵雄



教師ではない人から学ぶ

学生たちが社会に出てから、まず学ばなければならぬのは、教師以外の人たちからいかに学ぶかということだろう。教えることを仕事としている人から学ぶことは易しい。相手は教えようと身構えているからである。しかし、そうではない人から学ぶことは簡単なことではない。教師から学ぶことに幼いころから慣れている学生たちは、このことに気づ



いていない。教師が知っていることは限られている。なぜなら、それは彼らが教師だからである。魚を獲（と）る人は、魚の獲り方を教える人よりも、その獲り方についてよく知っている。なぜなら魚を獲る人はそれに集中できるが、魚を獲ることを教える人は一時的にしろ教えるときには魚から離れなければならないからである。

たしかに魚を獲ることに長い経験と多くの知識をもつ人が、こんどは教える人になることがある。しかし、その人も教えることになった日からは陸に上がる。その人が知っているのは昔の海であり、いまの海ではない。

えることには労力が伴う。片手間にできることではない。それにもかかわらず教えたがるのは、人の上に立つ気分を味わいたいのか。あるいは、自分が信じられないものを人に信じさせることによって安心したいのかもれない。

このように考えれば、もつとも多くのことを深く教えられるのは、教えることを仕事とせず、また教えることに関心もない人なのではないかと思う。なぜなら、このような人は教えるべきことを夢中になって愛し、また教えられるほど充分に知ってはいないと謙虚に思うほど、事柄の深淵を知っているからである。

ただし、先に述べたように、こうした人から学ぶことは容易ではない。教師は学ぶ意欲がないか、あるいは十分に強くない人に教えるのが仕事である。したがって教師は、わかりやすく教えるよう期待され、教師もそのために時間と労力を費やし、教え方を研究している。

実際、教師の優れたところはその点にある。つまり、魚の獲り方を魚を獲る人ほどに

は知っていないかもしれないが、魚の獲り方をいかに教えるかということには通じている。逆に言えば、教師ではない人は事柄についてよく知っていても、それをいかに教えるかは、よくわかっている。知っていることと知っていることを教えることは全く別のものなのである。

学校を去り、学生ではなくなっても、人は学び続けなければいけない。そのときに教えてくれる人がいたら、その学びはもつと豊かになる。しかし学生時代と同様に教師だけから学ぼうと思っているかぎり、教えてくれる人には恵まれないだろう。

自ら教えてやろうと言わない人こそ、実は私たちに多くのことを教えてくれるのである。その教え方は拙(つたな)く、わかりにくいものかもしれない。しかし、それは教えることを仕事としていないかぎり当然のことなのだ。教師が学ぶ意欲のない人に教えるための工夫をしているように、教師ではない人から学ぼうとするなら、教えるつもりがない人から学ぶための工夫をしなければならぬ。それは学ぶ側の責任なのである。

(知)

元気な健常者であった時、老齢者や障害者へのボランティアとして仲間と共にお世話していた頃は、杖か車いすくらいしか介助としての用具は、他に見当たりませんでした。

しかしながら自分自身が難病者として疾患を持つようになると、その数は次第に膨れ上がり、要介護5の全介助となった今は、面倒でもそうした介助用具を使用しないと、日常生活が成り立たなくなっています。介助用具の一つひとつは、失敗から来る必需品としてのものが多いです。

トイレや入浴介助、ベッドから車いすへ、車いすから自動車への移乗動作は危険が付きます。

私の場合は、告知を受けて5年ですが、2年前より四肢麻痺が急激に進み、その時々間に合っていた用具が次々と不要となり、物置へと置かれていました。(今は、交流会やメ

ールによる情報で有効に使ってもらっています)

介護保険制度が施行されて以来、福祉介護用品は通販同様、



目に触れるようになり適用への選択は便利にはなりませんが、費用負担の補助が受けられないものが多くあり、利用度と価格との兼ね合いで見合わせるものも少なくありませんでした。

こうしたことをきっかけにして、保健師(作業療法士)さんと「手製や既製で便利でお金の掛からない」ものは、との意気込みよろしく、私を実験台にして試行錯誤の知恵・工夫でした。

移乗で一番困るのは、下着が

食い込み修正が効きにくく不愉快なことこの上なくストレスにつながります。

そこで、座位保持ベルトと介助ベルト(北欧製品)のデモ製品を期限一杯に借りて、特許やコピー品として差し障りがないか、素材の質は? 寸法や型は? 使い勝手は? などに着目しては、溜め息の連発でした。日々の上たる介助は、妻に負う所が多いですが、訪問看護師さんも使用しては、ヒントを出してくれました。上記の二つの製品を合体させれば、との一言は、早速市販のベルト探しをする事になりました。結果は、上手く行きました。

保健師さんはこれを機会に改善グレーブを作ると言われ、看護師さんは、訪問先や院内での声掛けに、私は患者仲間にもメール発信をしました。

ささやかであっても、何だか大きな満足感を味わった、一つの改善でした。

テーブル

食べることと遊ぶことは、人間本来が持っている基本的なもの、と言われたのが5月の出会いにご出席くださった土井俊次様でした。確かに美味しいものを食べている時の顔や、無心になって遊んでいる時の顔は大人でも子どもでも幸せな笑顔になっています。その喜びの一つである食べることに必要なのが食卓やテーブルだと思いますが、この高さが気になります。椅子の位置づけによって、テーブルの高さも異なっています。私が苦手なのはソファー。座面は低いし、腰掛けると奥深く座ったが最後、そのままの姿で固まってしまいます。そして、テーブルは低いのです。たとえ車いすに座っていても、カップなど取るのが難しいです。また、食堂などのテーブルでも車いすの肘掛が邪魔をしてテーブルと体が離れて食べにくいことがあります。それで、松葉杖を使えるときは車いすから降りていました。その方が体に楽で美味しく食べれる気がするのです。ところが、最近、気がついたのですが、外食したときに車いすから降りることが少なくなってきているのです。降りたり乗ったりの動作が大儀になってきたこともあるのでしょうが、デパートの喫茶店や近くのファミリーレストランでは、電動車いすの肘掛がぶつかることなくテーブルに着けるのです。これは、テーブルのユニバーサルデザインではないかと考えるのですが…。それとも、皆さんの体格がよくなってテーブルの足が長くなった？ のでしょうか。(け)

美智子のこんな話

岸田美智子

いったいどうなるの

前日も掲載させていただきましたが、障害者自立支援法案の国会審議が続いています。

郵政民営化の審議で先送りされて、決着が

会において障害者みずから陳述したのは、初めて実現したそうです。

そして、5月12・13日には、東京で大規模なフォーラムとデモ行進などがあり、合わせて8000人以上の仲間が参加しました。もちろん

いつごろつくのか見通しがつかない状態です。

応益負担の問題についても家族の負担を見直し、そして、移動介護は個別給付で国の制度とすべき、などの強い要望が出ています。国

私達「まいど」のメンバーも参加してきました。これだけ多くの障害者の仲間が集まったのは、この法案の枠組みが決まってしまえば、障害者の地域での自立生活が崩壊すると言う危険があるからです。

次頁はこのときの様子を報じた5月13日付朝日新聞朝刊。

○連絡先

自立生活センター・MY・DO(まいど) 〒558-10002

大阪市住吉区长居西1-9-12キミハウス1階

TEL 06-6609-3133

FAX 06-6609-3210

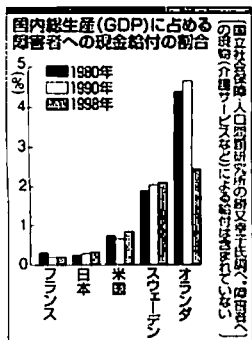
「聞いてください、わたしたちの声」と題した集会では、全国から集まった障害者らが法案に異議を唱えた=12日、東京・日比谷で

自立支援法案 本格審議スタート

届くか 障害者の声



自己負担増 細部見えず



■ 6千人集会
「財政難が理由のサービスクラッシュ抑制策だ」「障害者が「新たに食費を払うのはいや」と訴えてくる」

「拙速」批判

民主・岡田康博氏判
定には障害者本人や家族
の意見を聞く場を設ける
べきだ」
堀田幸雄・厚労副官
保健福祉部長「審議会が

「当事者不在」指摘も

必要に応じて判断するの
で必要ない」
11日の審議で、障害者
のサービスクラッシュを抑制する市町村審議会
運営を巡る議論があつた。
障害者には「案精を知

6千人集会

「財政難が理由のサー
ビスクラッシュ抑制策だ」「障害者
が「新たに食費を払う
のはいや」と訴えてくる」
（西山公隆、編集委員・生井久美子）

■ 乏しい基盤

審議では障害者福祉政策のあり方も問われる。
全国障害者社会資源マップ03年度版（小規模作業所などの全国組織「きょうされん」調査）によると、全国の市町村のうち地域で暮らしためのグループホームがない所が73%、働く場となる通所授産施設も75%がない。さらに、国立社会保険・人口問題研究所によると、98年時点で国内総生産（GDP）に占める障害者への現金給付の割合は0.33%。スウェーデンの6分の1、米国の半分以下だ。
「自立支援」のかけ声の一方で、乏しい施設や予算面での裏付け。11日の審議で、民主党の阿部知子氏はこう指摘した。
「この機会に日本の障害者福祉の根本論も議論すべきだ」

た。「食費を削るか、外出を減らして家でじっとしているしかないのか」
22歳で交通事故に遭い、生活のほとんどを助が必要ない辻山さん（33）は、通所授産施設職員から新幹線で取付けた。一人暮らしの辻山さんの収入は障害者年金と特別手
当などでひと月約10万円。家族や食費などで足りなくなり、自立支援に逆行している」と嘆き、障害者が払えない場合、同僚の家族に負担を求め、意思にも反発が強い。
厚労省は賦課増も受け入れられているが、具体的な負担が決まるのは法案成立後だ。
「法案の細部が不透明で不透明を呼んでいる」（自民・石崎博氏）、
「負担の具体的な形が約2000の政令に委ねられている」（共産・山口猛氏）。11日に始まった厚労省労働委員会の審議で与野党から疑問が飛んだが、尾辻厚労相は「政府は審議を十分に踏まえて決める。徹底的に和も話し、きめ細かく対応する」と答えている。また、
法案には、負担の前提となる収入を増やすための就労支援策も盛り込まれた。ただ障害者の多くは生活保護や月10万円に満たない障害者年金で生活しているが、実情でどこまで改善につながるかは未だだ。

現行制度	自立支援法案
費用負担	・サービス費に「定額（定額）負担（負担上限あり）」 ・施設利用者は食費、光熱費自己負担
年齢、障害種別で別々	・提供主体は市町村に統一、サービスも一元化して同一施設で異なる障害者に対応
「障害程度区分」を設け、等級的格差を設ける	・「障害程度区分」を設け、等級的格差を設ける

「この機会に日本の障害者福祉の根本論も議論すべきだ」

絵はがき

サロンの

5枚1組 ¥180-

要介助者のトイレ使用時にスカートやワンピースの裾を介助者が持っているということがよくあります。このような介助は、される側にも、する側にも煩わしいことです。とりわけ、される側にとっては、否応なく羞恥心を強いられます。

おしゃれは下着から・・・これではおしゃれ心も半減してしまうのでは？ 要介助者、ヘルパーさんの協力でデザインしたのがこのベチコート(衣服下半身部の裾収納用アンダーウェア=特許申請中)。

スカートやワンピース・ドレスを着用している場合、トイレ使用時にはこれらの裾をまくり上げ、まくり上げた裾が使用時に落ちて、便器や床についたりしないように、持っていないければなりません。このような動作、行為は健常者であれば、そ

れほど難しいものではありません、また苦にもなりません、手が不自由な人や老人に

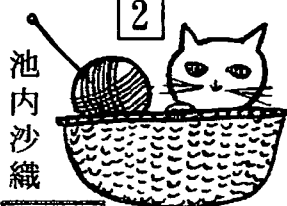
でも少なからずあるようです。そこで、考案したのが「誰にでも共通で着用できる裾収納用アンダーウェア=下写真・図」—通常のアンダーウェアと変わりありません。

裾に付けたレースの1カ所のつまみを引っ張ることで、裾周りを収縮出来、さらにストッパーの作用で、その状態が保たれ、両手があくこととなります。手が不自由な人も、介助者の手を借りず1人で、用を足すことが出来るというわけ。

- サイズ S・M・L (オーダーもOK)
- 色 ベージュ (レースは本体の生地と同色)
- 素材 トリコット
- 値段 5000円 (送料別)

ひとつずつ
ひとつだけの世界

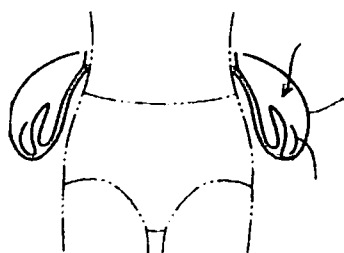
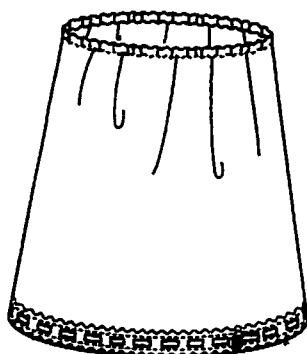
——ベチコート



池内沙織



とは簡単ではありません。片手で持ち続けることから解放されたいという思いは要介助者はもちろん、健常者であつ



ゆい・まある (沖縄の方言)
つながり・助け合い・お互いさま



一問い合わせ先：手沙織工房☆池内沙織一
〒567-0048茨木市北春日丘4-9-24井上9'101
TEL & FAX 072-627-8611 携帯 090-8129-9115
E-mail:tesagurikobo@hcn.zaq.ne.jp



特別コース

7月はどこのサロンの、どのテーマがお気に入りですか。いい出会いしませんか。

■「サロン淀川」7月の出会い

日時：7月17日(日)午後1時30分～4時
内容：お父さんの銀メダル

～交通事故で頸椎損傷、闘病生活の中で
家族の愛の大きさを実感する～

ゲスト：片岡文雄氏(全国障害者沖縄国体アーム
レスリング銀メダリスト)

会費：なし

場所：淀川区在宅サービスセンター「やすらぎ」
大阪市淀川区三国本町2-14-3

問い合わせ先：淀川区社協(ボランティア・ビュー
ロー) ☎06-6394-2900
E-mail: sorajii@iris.conet.ne.jp

■「サロン・にし」7月の出会い

日時：7月9日(土)午後1時30分～4時
内容：みんなで、手品を楽しもう!

会費：なし

場所：西区在宅サービスセンター6階

ボランティア・ビューロー室
大阪市西区新町4-5-14 (西区役所隣)
地下鉄=西長堀駅4-A号 出口からすぐ
市バス=地下鉄西長堀駅から徒歩
☎06-6539-8075

問い合わせ先：関口 ☎090-4281-5641

■「サロン・にしよど」7月の出会い

日時：7月23日(土)午後1:30～3:30

内容：たこ焼きパーティー
～今年もやります! 汗をかきながら、
熱いたこ焼きを口の中で転がして、夏の
一時をサロンで楽しみませんか～

場所：トモノス西淀川

参加費：なし

問い合わせ先：中本勝也

☎090-9864-9678

■「ウイズ東淀川」7月の出会い

日時：7月10日(日)午後1時30分～4時

内容：映画鑑賞

パネラー：赤尾弘明氏

会費：なし

場所：東淀川区民会館4階・会議室

問い合わせ先：鈴木昭二

☎・FAX 06-6340-3082

■「サロン・いたみ」7月の出会いはお休みです。

創業昭和67年

さろん

「さろん亭」の開店が近づいてきました。売れ筋の石鹸・タオル
など、今年も「さろん亭」を最優先に品物の提供をお願いします。

<サロン・あべの>

連絡先 富田慶子 545-0021 大阪市阿倍野区阪南町6-3-26 TEL/FAX 06-6691-1028

声で読書のお手伝い

音訳テープのご案内

音訳グループ「糸でんわ」のご協力で<サロン・あべの>紙第227号の音訳テープが出来ました。

■音訳テープ文庫

- (a) <サロン・あべの>紙は、第1号より第227号までそろっています。
- (b) <サロン・あべの>十周年記念誌「はあとが、はろー！」
- (c) 絵本「未知の記憶」(作・絵 中川勝彦)
- (d) 「ラジオたんぱ」放送「<サロン・あべの>平成7年5月の出会い」放送分(30分)
- (e) エッセー集「逃げた『ヨナ』～ボランティア活動の周辺～」(岡本栄一著=糸でんわ音訳)
- (f) 「キミたちだけじゃ困るんだ～身障者だけで旅した十余年～」(山田誠1995・2・22著=糸でんわ音訳)
- (g) 「金子みすずへの旅」(島田陽子著=糸でんわ音訳)
- (h) 「夕やけ空のオニヤンマ」(牧口一二著=糸でんわ音訳)
- (i) 「ガベちゃん先生の自立宣言」(曾我部教子著=糸でんわ音訳)
- (j) 「セルフヘルプグループ」(岡知史著=糸で

んわ音訳)

- (k) 「名物 天王寺かぶら」(猿田博創作 難波利三監修=大阪市立天王寺図書館制作)
- (l) 「知らされない愛について」(岡知史著=ほけつと音訳)
- (m) 「愛 ひとり旅」(奥田真祐美著=糸でんわ音訳)
- (n) 「奥田真祐美のシャンソン手帳」(奥田真祐美著=糸でんわ音訳)
- (o) 「もうちょっと知っとく? 私たちの阿倍野」(難波りんご著=糸でんわ音訳)
- (p) 「猫とシャンソン」(奥田真祐美著=糸でんわ音訳)
- (q) 「ほんの少しの神に近い部分」(岡知史著=糸でんわ音訳)
- (r) 「勁くしずかに」(河野勝行編・著=糸でんわ音訳)
- (s) 「たまごが ポン!」(稲垣恵雄著=糸でんわ音訳)
- (t) 阿倍野名所旧跡いろはがるた(猿田博=糸でんわ音訳)
- (u) 交わりのなかで ～ホームヘルパー残像～(加藤みどりさんを偲ぶ文章を作る会著=糸でんわ音訳)

ご希望の方には、ダビング、または貸し出しをしますので、富田(☎06・6691・1028)まで。

寄りみち



今年もさろん亭の品物をお願いする時期になりました。ご承知のとおり世間一般に経済情勢は厳しいものがあります。<サロン・あべの>の台所もご多分にもれず・・・です。さろん亭の収益はサロン活動にとって欠かせない大きな財源のひとつです。何はともあれみなさまの協力が寄与するところ大です。他に提供される先があらうかと思いますが、さろん亭を最優先に品物の提供をお願いします。(石)

<サロン・あべの>VOL. 228 発行：平成17(2005)年6月18日 定価¥100
 編集人：<サロン・あべの>運営委員会 表題：中西利香・筆 文中イラスト：石田美禰子
 事務局：〒545-0021 大阪市阿倍野区阪南町6-3-26 富田慶子方<サロン・あべの>
 TEL・FAX 06-6691-1028 郵便振替口座：サロン・あべの 00950-9-26941
 印刷：セルフ社 〒546-0044 東住吉区北田辺町4-23-2 ミスターDビル2F TEL06-6719-8212
 本紙はホームページでもお読みいただけます。書庫は、<http://pweb.sophia.ac.jp/~t-oka/salon/>